

## ツバキの集いを修景に広げるふるさとづくり (平成20年度認定)



「長寿の里」「芭蕉布の里」「シークワサーの里」「ぶながやの里」で知られる大宜味村。大宜味つばきの会は、中央山地の塩屋富士からネクマチイ岳一帯の標高300m～350m、稜線沿い3km程の遊歩道に沿った約300haの範囲を活動の主なフィールドとしている。そこは往時の里山であり、ヤブツバキの群生地やサザンカ、ヒメサザンカを見ることが出来る。また、かつて山畑を守り巡っていた猪垣が今も残され、さらに稜線からの眺望もよいなど、体験学習の場としても最適な環境を持っている。

大宜味つばきの会では、このフィールドを生かしてツバキ類を栽培し植栽する活動や草刈をはじめ森や植栽地を定期的に管理する活動を進める一方で、来訪者を案内し交流活動を展開して地域のグリーンツーリズム団体や各地の自然愛好団体などとの協力・連携を深めている。また、村の行事や海洋博公園都市緑化植物園等で行われる各イベントへ積極的に参加してツバキの取り組みを普及している。

